

株主のみなさまへ

第92期 中間報告書

2016.4.1-2016.9.30



基本理念

1. 社会 よき企業市民として社会との調和ある成長を目指す。
 - 1) 企業倫理の徹底をはかり、公正で透明な企業活動の推進。
 - 2) クリーンで安全な商品を提供することを使命とし、地球環境保護を重視した企業活動の推進。
 - 3) 地域社会の一員としての役割を自覚し、よい社会づくりに貢献。
2. お客様 革新的な技術開発、製品開発に努め、お客様に喜ばれる、よい商品を提供する。
3. 株主 将来の発展に向けた革新的経営を進め、株主の信頼に応える。
4. 社員 労使相互信頼を基本に、社員の個性を尊重し、安全で働きやすい職場環境をつくる。
5. 取引先 開かれた取引関係を基本に、互いに研鑽に努め、共に長期安定的な成長を目指す。



株主のみなさまへ



トヨタ紡織グループは、持続可能な成長を目指して、この4月からマネジメント体制を大きく変更し、新たな組織・経営体制をスタートさせました。

今、私たちを取り巻く市場環境は、グローバルでの競争もますます激化することが予想され、引き続き予断を許さない厳しい状況が続くと思われます。このような状況の中、トヨタ紡織グループでは、2015年度から2016年度までの2年間を体質強化の期間と位置付け、足許固め、構造改革をグループ一丸となって進めており、特に、昨年10月以降は、開発力や生産技術・生産力の徹底的な強化など、最重点課題を決め取り組んでおります。2016年度は、これらの取り組みをしっかりとやり切るとともに、トヨタ紡織グループの未来を見据え、新たな体制のもと、中期経営計画を策定しました。

また環境面では、国際社会の要請にしっかりと応えるとともに、持続可能な成長を目指し、長期目線での目指す方向性や目標を示した「2050年環境ビジョン」を新たに策定し、その取り組みをスタートさせました。

トヨタ紡織グループのありたい姿「世界中のお客さまに最高のモビリティライフを提案し続ける会社」として、モビリティの中で人が過ごす時間をより豊かで上質なものにしていくことに貢献するとともに、「よき企業市民として社会との調和ある成長を目指す」という基本理念のもと、すべてのステークホルダーから信頼され、ともに成長する企業づくりにまい進していきます。トヨタ紡織グループの未来のために、そして、ご支援をいただいておりますステークホルダーのみなさまのために、今何をすべきか、私たち一人ひとりがしっかりと考えて実行に移していきたいと考えております。

みなさまには、今後とも、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

取締役会長

豊田周平

取締役社長

石井克政

目次

株主のみなさまへ 02

特別企画 03

持続可能な成長を目指して
2020中期経営実行計画を策定

財務ハイライト 05

トピックス 07

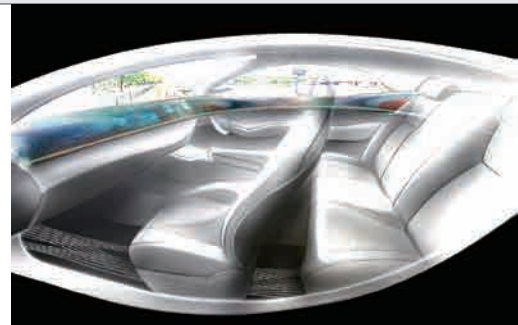
決算概要 09

会社の概況 10

持続可能な成長を目指して

2020中期経営実行計画を策定

トヨタ紡織グループは、ビジョンを実現するための経営のありたい姿を描き、その具体的なアクションプランとして、2020年度までの中期経営実行計画を策定しました。



2020中期経営実行計画

1 社会との調和ある成長

トヨタ紡織グループは、良き企業市民として、社会との調和ある成長を目指すとともに、持続可能な成長(競争力強化と経営基盤の強化)を追求することで、中長期的な企業価値の向上を図っていきたく考えています。

2 持続可能な成長

競争力強化の取り組み

1. 2030年を見据えた新技術・新製品の開発

- 【快適】人が快適と感じる時空間を他に先駆けて開発
- 【安全】時代に先んじた安心安全なモビリティ空間の提供
- 【環境】自然環境に配慮したモビリティ空間の提供

2. 2030年を見据えたモノづくり革新の推進

- 【愛着】お客様にほしい「モノ」と「創る楽しみ」を提供
- 【信頼】洗練されたモノづくりで確実に製品を提供
- 【安心】シンプルなモノづくりでリスクを予見し、安全を提供

3. モノづくりの基本的能力のさらなる向上

開発力の強化

- 新開発プロセスを活用した技術開発力の深化
- グローバル R&D拠点の有機的連携による開発リソースの有効活用
- エンドユーザーが魅力的だと感じられる車室空間デザイン提案力の強化

生産技術・生産力の強化

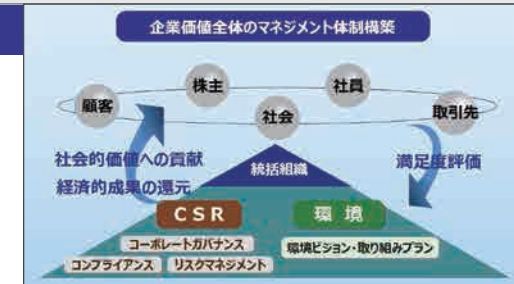
- 工場基本要件のグローバル展開と定着による現場力の強化
- 工程と生産製造準備プロセスの標準化による品質・生産性の向上
- 生産技術のさらなる進化による品質・生産性・原価改善
- グローバル生産体制の再編による品質・生産性・原価改善

3 中長期的な企業価値向上と成果の還元

企業価値向上の成果をステークホルダーに還元するとともに、持続可能な成長に向けた再投資により、ステークホルダーの期待に応えていきます。

2020年度の財務の目指す姿

- 経済的価値の向上：安定的に**営業利益率5%以上**を確保
- 財務体制の健全化：**自己資本比率40%**程度
ROE 10%程度
- 長期安定的な配当：**配当性向30%**レベルを目指す



経営基盤の強化の取り組み

1. 収益力の向上

ビジネスモデルの強化

- システムサプライヤー体制の進化
- 「いいシートづくり」に向けた骨格事業統合の完遂

新規顧客ビジネス事業基盤の確立

- 事業戦略の再構築
- 事業管理体制の整備

日本事業体制の再構築

- 将来構想に基づく事業構造改革
- 製品事業戦略と生産戦略が統合した工場・事業体の再構築

2. 強靱な事業構造の取り組み

- ・不測の事態にも供給責任を果たしうる強固な BCPの見直し
- ・極端な需要変動を柔軟に吸収し、影響を極小化できる事業構造の構築
- ・グローバルな事業活動における為替・金融環境変化への対応力の強化

3. グローバルな経営基盤の整備

- ・マネジメント情報基盤の整備
- ・多様な人材がイキイキと活躍できる環境整備
- ・ワンカンパニー体制のさらなる推進

ビジョン

目指す企業像

明日の社会を見据え、世界中のお客様へ
感動を織りなす移動空間の未来を創造する

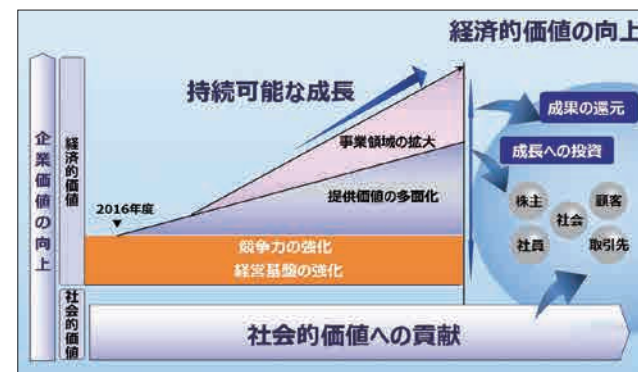
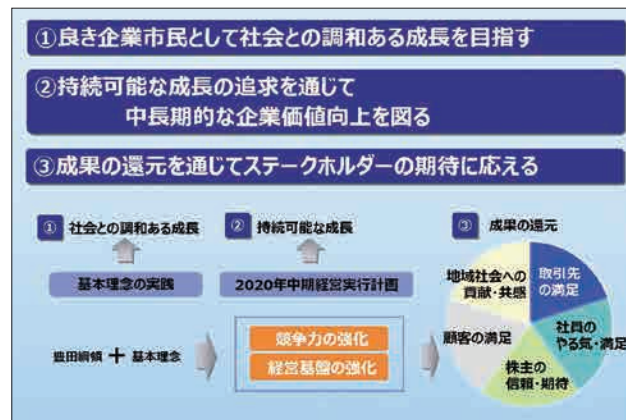
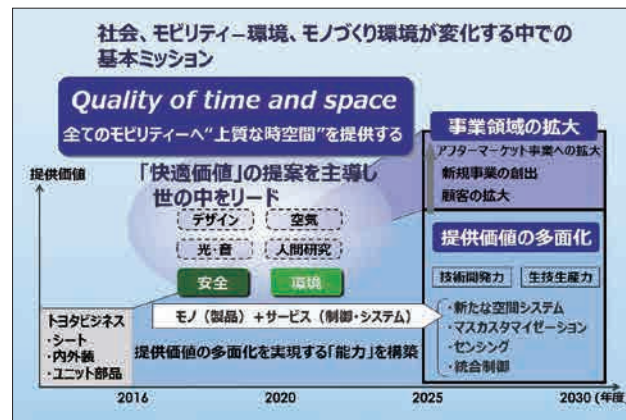
事業におけるありたい姿

世界中のお客様に、最高のモビリティライフを提案し続ける会社

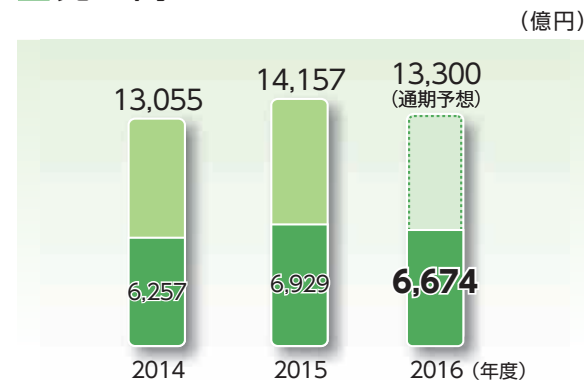
社会から見たありたい姿

すべてのステークホルダーから信頼され、ともに成長する会社

ビジョンの実現に向けた「2030年のありたい姿」を
下のように描きました。

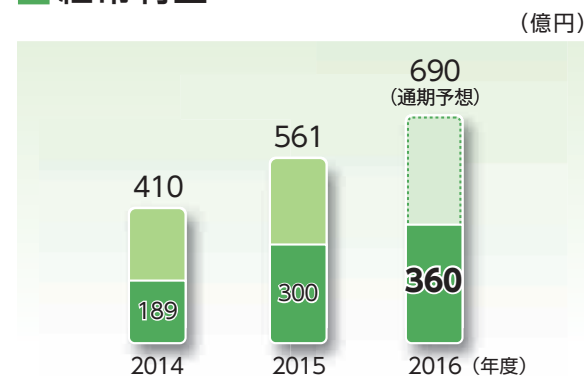


売上高



アジア・オセアニアなどでの増産はありましたが、為替の影響などにより、減収となりました。

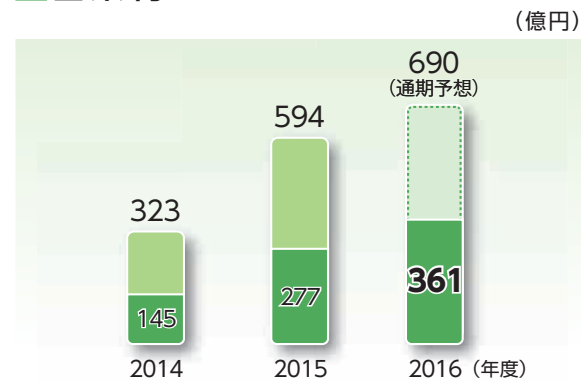
経常利益



営業利益の増加などにより、増益となりました。

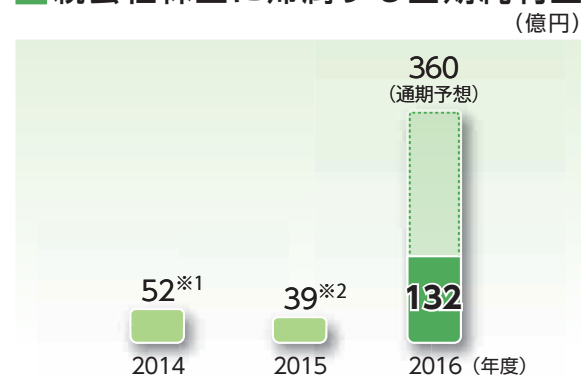
第2四半期累計 通期 通期予想

営業利益



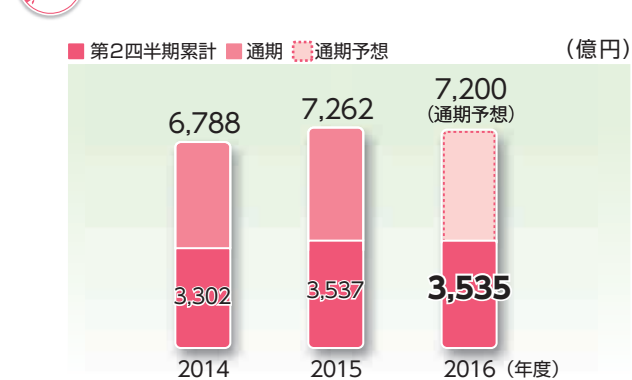
製品価格変動や為替の影響などによる減益要因はありましたが、合理化や主力車種のモデルチェンジにともなう商品力の向上と販売拡大などにより、増益となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益



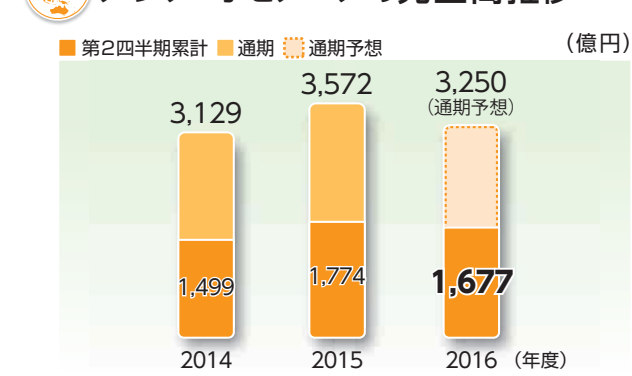
税負担の増加などにより、減益となりました。
^{※1} 2014年度の親会社株主に帰属する当期純利益は、第2四半期累計87億円、通期52億円でした。
^{※2} 2015年度の親会社株主に帰属する当期純利益は、第2四半期累計177億円、通期39億円でした。

日本の売上高推移



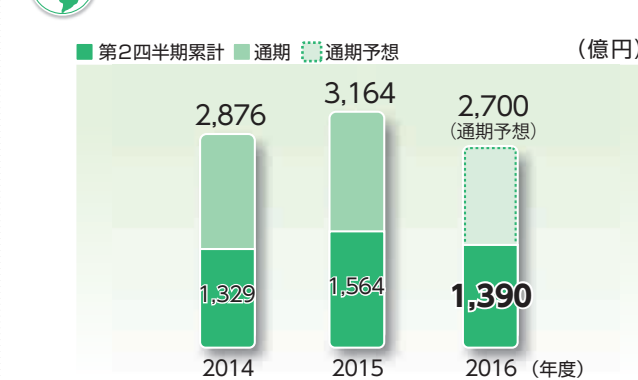
車種構成の変化などにより、前第2四半期に比べ1億円(△0.1%)減少の3,535億円となりました。

アジア・オセアニアの売上高推移



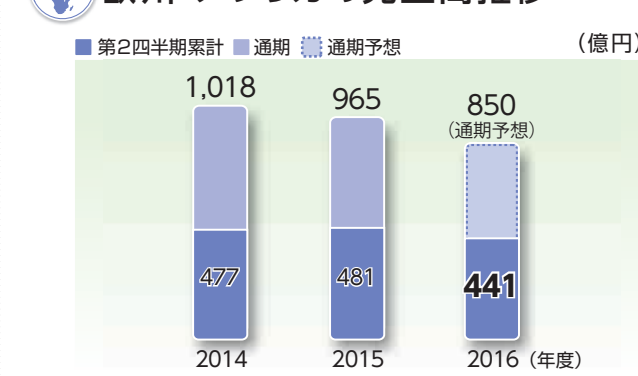
中国などでの増産はありましたが、為替の影響などにより、前第2四半期に比べ96億円(△5.5%)減少の1,677億円となりました。

北中南米の売上高推移



為替の影響などにより、前第2四半期に比べ173億円(△11.1%)減少の1,390億円となりました。

欧州・アフリカの売上高推移



生産台数の増加はありましたが、為替の影響などにより、前第2四半期に比べ39億円(△8.3%)減少の441億円となりました。

トピックス

01 トピックス **ビジネスの拡大** 自動車用シート開発の知見を生かし、映画館用シートをはじめてデザイン

愛知県の名古屋駅前に7月にオープンした、「ミッドランドスクエア シネマ2」に、お客さまに特別な空間を提供するプレミアムシートが設置されました。このシートは、当社がはじめて携わった映画館用シートであり、シートのスタイリング、素材選定から仕上がりまでを含むデザイン開発*を担当しています。また、一般席の素材や色の選定、劇場内のカーペット、壁装材の選定などにも携わりました。

*デザイン開発/トヨタ紡織 合成皮革開発/TBカワシマ 設計・製造/コトブキシーティング(株)



ミッドランドスクエア シネマ2の77席がプレミアムシート

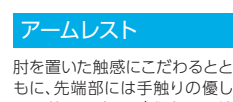
ヘッドレスト

座った瞬間に感じるやわらかな触感と、包み込まれる形状が特長



表皮

合成皮革では初となる抗菌・抗ウイルス加工



アームレスト

肘を置いた感触にこだわるとともに、先端部には手触りの優しさで美しい木目が際立つ圧縮加工した国産杉を使用



サイドパネル

映画に集中できるプライベートな空間を演出。パネル上部に設置した照明と、足元を照らすフットライトにより、非日常の世界へと誘います



02 トピックス **事業展開** シリコンバレーオフィスを新設

アメリカのシリコンバレーに4月、「トヨタ紡織アメリカ シリコンバレーオフィス」を新設しました。シリコンバレーオフィスは、自動運転や移動空間に関する先進技術の情報調査・分析活動をさらに強化するため、トヨタ紡織アメリカのR&Dセンターの組織として設立。当社の基礎研究所や、世界各地域に設けるR&Dセンターとも連携します。今後このオフィスを活用し、新規ビジネスの創出を迅速かつ効率的に提案できる体制を築いていきます。

03 トピックス **環境活動** 「2050年環境ビジョン」、 「2020年環境取り組みプラン」を策定

持続可能な地球環境を目指し、トヨタ紡織グループが一体となって地球環境保全を推進していくため、「2050年環境ビジョン」と「2020年環境取り組みプラン」を策定し、5月に発表しました。「2050年環境ビジョン」は気候変動などの環境問題に対し、6つチャレンジ目標を掲げたもので、「2020年環境取り組みプラン」は「2050年環境ビジョン」を実現するために取り組むべき事項を、5年間の中期実行計画として策定したものです。6つのチャレンジ目標達成のため、グループ一丸となって活動を加速し、子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な地球環境を目指します。

2050年環境ビジョン

すべてのステークホルダーのみなさまと一致団結して、子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な地球環境を目指します。

6つのチャレンジ目標

トヨタ紡織グループ CO ₂ 排出量ゼロにチャレンジ	ライフサイクル CO ₂ 排出量ゼロにチャレンジ
天然資源 使用量ミニマム化にチャレンジ	トヨタ紡織グループ 廃棄物ミニマム化にチャレンジ
トヨタ紡織グループ 生産工程 水リサイクル化による 排出ゼロにチャレンジ	森づくり活動 132万本植樹にチャレンジ

04 トピックス **モノづくり力の強化** トヨタ紡織技能士会 を設立

技能士同士の交流を深め、相互研鑽を図るため、トヨタ紡織技能士会を5月に設立しました。この会は、当社に在籍する技能士で構成され、愛知県技能士会連合会が主催する総会や講習会への参加、社外施設の見学会などを実施する予定です。



設立総会であいさつするトヨタ紡織技能士会会長

05 トピックス **IR活動** 株主・投資家とともに

株主や投資家のみなさまに当社グループへの理解を深めていただくため、工場や施設見学会、セミナーなどを開催しています。今後も、株主、投資家のみなさまとのよりよい信頼関係づくりに努めていきます。

工場・施設見学会を実施

今年の株主総会后、当社猿投工場の見学に加え、はじめて技能育成センターの施設見学会を開催。約80人の株主のみなさまに、シート組立工程やからくり改善の設備などをご見学いただきました。



猿投工場組立工程の見学

個人投資家セミナーを開催

当社の経営状況や事業戦略をご理解いただくため、製品や技術、今後の取り組み、展望についてご説明しました。その後、参加者の方から活発な質疑、ご意見をいただきました。



約180人の方にご参加いただきました

決算概要

連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科目	前期末 (2016年3月31日)	当第2四半期末 (2016年9月30日)
●資産の部		
流動資産	453,041	395,516
固定資産	272,853	243,935
有形固定資産	213,867	187,796
無形固定資産	7,804	7,284
投資その他の資産	51,182	48,855
資産合計	725,895	639,452

連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科目	前第2四半期累計期間 (2015年4月1日～ 2015年9月30日)	当第2四半期累計期間 (2016年4月1日～ 2016年9月30日)
売上高	692,995	667,485
売上総利益	70,240	77,210
販売費及び一般管理費	42,498	41,062
営業利益	27,741	36,148
営業外収益	4,821	4,402
営業外費用	2,562	4,454
経常利益	30,000	36,096
特別損失	627	—
税金等調整前四半期純利益	29,372	36,096
法人税等	8,441	18,536
非支配株主に帰属する四半期純利益	3,229	4,277
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,701	13,281

(単位：百万円)

科目	前期末 (2016年3月31日)	当第2四半期末 (2016年9月30日)
●負債の部		
流動負債	349,208	285,265
固定負債	133,539	125,661
負債合計	482,748	410,927
●純資産の部		
株主資本	212,515	223,188
その他の包括利益累計額	△ 14,699	△ 32,704
新株予約権	72	—
非支配株主持分	45,257	38,040
純資産合計	243,146	228,524
負債純資産合計	725,895	639,452

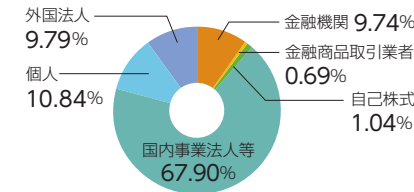
会社の概況 (2016年9月30日現在)

株式の総数

発行可能株式総数 500,000,000 株
 発行済株式の総数 187,665,738 株
 (自己株式 1,958,087 株を含む)

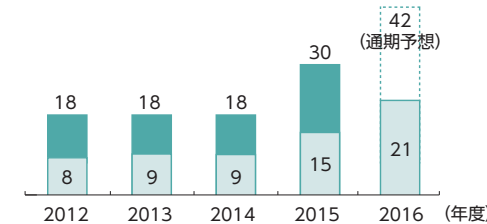
株主数 (13,008 名)

●所有者別株式分布状況



配当金の推移

■ 年間 (単位：円)
 □ 第2四半期



当社は、長期安定的な配当の継続を基本に、連結業績および配当性向などを総合的に勘案し、株主のみなさまのご期待にお応えしていくことを配当の基本方針としています。

●中間配当金について

2016年9月30日の最終の株主名簿に記載もしくは記録された株主または登録株式質権者に対し、次のとおり中間配当金をお支払いします。

1. 中間配当金：1株につき21円
2. 効力発生日ならびに支払い開始日：2016年11月25日

会社データ

設立 1950年5月
 資本金 8,400百万円
 従業員数 単独 8,246名 連結 41,658名
 本社 愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地

役員 [取締役および監査役]

取締役 会長	豊田 周平	取締役	加藤 光久
取締役 社長	石井 克政	取締役	守川 正博 ^{※1}
取締役 副社長	小山 秀市	取締役	佐々木一衛 ^{※1}
取締役 副社長	滝 隆道	取締役	安達美智雄 ^{※1}
取締役 副社長	沼 毅	常勤監査役	三吉 茂俊
取締役 専務役員	山内 得次	常勤監査役	水谷 輝克
取締役 専務役員	山本 直	監査役	佐々木真一 ^{※2}
取締役 専務役員	鈴木 輝男	監査役	吉田 均 ^{※2}
		監査役	加藤 宣明 ^{※2}

※1 社外取締役 ※2 社外監査役

主な製品



株式事務のお取扱いについて

■ 事業年度

4月1日から翌年3月31日まで

■ 定時株主総会

毎年6月

■ 配当金支払株主確定日

3月31日 なお、中間配当を実施するときは9月30日

■ 株主名簿管理人および特別口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

■ 同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

■ ご注意

- 1.株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に口座をお持ちの株主様の各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式に関するお手続きについて

■ 特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	<ul style="list-style-type: none">● 特別口座から一般口座への振替請求● 単元未満株式の買取（買増）請求● 住所・氏名等のご変更● 特別口座の残高照会● 配当金の受領方法の指定※	<ul style="list-style-type: none">● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会● 支払期限経過後の配当金に関するご照会● 株式事務に関する一般的なお問合せ
お問合せ先	特別口座管理機関	株主名簿管理人
	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 [手続き書類のご請求方法] ● 音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 （通話料無料） ● インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/	

※特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

■ 証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	<ul style="list-style-type: none">● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会● 支払期間経過後の配当金に関するご照会● 株式事務に関する一般的なお問合せ	<ul style="list-style-type: none">● 左記以外のお手続き、ご照会等
お問合せ先	株主名簿管理人	口座を開設されている証券会社等にお問合せください
	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部	

■ 少額投資非課税口座（NISA口座）における配当等のお受け取りについて

新規に購入された当社株式をNISA口座でご所有される場合、配当等につき非課税の適用を受けるためには、口座管理機関（証券会社等）を通じて配当等を受け取る方式である「**株式数比例配分方式**」をお選びいただく必要がございます。

ご所有の株式のうち、特別口座に記録された株式をお持ちの株主様は「**株式数比例配分方式**」をお選びいただくことができませんのでご注意ください。

お問合せ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL **0120-232-711**（通話料無料）

